

「合祀前の田口地区津島神社を探る」

かつて田口地区の通称・平三区と言われる栄町・本町・太田口には、それぞれ津島神社があり、津島様の愛称で祀られていたようです。津島様のお祭りは、ここにかく大勢の人々が繰り出し賑やかで、盛況だったと、当時を知っているお年寄りの誰もが口を揃えて語ります。

ところが、津島神社に関する文献・記録・写真等はほとんど残されていません。

そこで、当時の様子を記憶されている方々を訪ね、津島神社の様子や祭祀の様子を探って偲んでみることにしました。

■僅かに残る文献から

【設楽町誌より】

○現津島神社 田口字向木屋

白山神社の境内に鎮座

祭神・素戔鳴尊

由緒沿革・昭和二十五年三区

の神社を統合し、遷座

○旧三区の津島神社所在場所

・栄町区(旧中島地区・西路地区)

田口字大久保(田口浄水場付近)

・本町区 田口字西貝津(本町墓地横)

・太田口地区(旧東路地区)

・当初大西(今泉功さん宅裏手の

小高い丘)にあった。大正十四

年杉平(正木淳治さん宅裏山)

設楽町誌の記載からは、祭祀

の状況や祭りの様子・時期等を

具体的に伺い知ることはできな

い。また、通史編の記述でも、



栄町の津島神社跡地

『明治六年の神仏判然令により合祀・廃却した地区もあり、明治以降の祭典がはつきりしない』と記載されている。

そこで、当時を語る方々の協力を得て、旧三区の津島神社のおぼろげな姿を追ってみることにした。

■聞き取り調査から探る

◇山田一男さん

(九十二才・栄町在住)

栄町の社は、大久保にあり、間口が一間から一間半くらい、横に休憩所(横三間、縦二間位)があり、矢場もあった。

山車の倉庫は、安神散の前の蔵の所にあった。祭りは祇園(七月中旬)に行われた。祭りでは栄町と本町の山車がぶつかり合う

ことも時にはあった。(昭和十二年以前は、栄町の道は、本町の太田屋さんから鈴岡商店前を

通って福田寺階段前に抜け中島へのルートで、道幅が狭く山車の通り抜けを競い合った)とにかく賑やかだった。

◇澤田あやさん

(九十六才・栄町在住)

とにかくすごく賑やかで、お参りに行って甘酒を振舞ってもらった。社前では、御嶽教の人が拜んだり、火渡りもしたように覚えている。

※町誌によると中島地区には、大久保に御嶽(河合)さんと親しまれた御嶽教があったとの記述あり。

◇岡寛さん

(八十八才 本町在住)

昭和二十三年七月二十日・二十一日に行われた祇園津島神社祭の写真と日記を見せていただいた。日記によると、初日は津島神社のお参りがあり、宵祭りで山車を引いた。翌日は片付けを行い、午後は慰労会を催したようだ。本町の山車の倉庫は、上原の加藤清広さん宅付近にあった。

◇後藤昭典さん

(八十八才 太田口在住)

父から聞いた話として、「明治二十二、三年の頃、田口に流行病があり、病氣平癒を祈願し、津島神社を祀り始めた」と聞いた。また、栄町を昔は「横手」と言い、昭和二十五、六年頃名称変更されたようだ。

※このことについては、窪田新七さんからも伺い、横手は悪しき行いをイメージされやすいため、それで替えたようだ」と伺った。

当時は、名古屋と同じ名称でハイカラだと揶揄したとお聞きした。



田口三区の津島神社祭礼の様子や神社に関する様子が古老の皆様の記憶から、少し見えてきたように思える。

■津島祭りと白山神社祭典

戦争のため途絶えていた津島祭りは、昭和二十三年、七月二十日・二十一日で戦後初めての山車がでた。

一方、白山神社の祭典は、秋の花火だけの祭典であったが、昭和二十五年の津島神社三社の合祀を契機に、翌年から十月に祇園祭の山車を出すことになり、現在に至る。

■まとめ

白山神社の田口遷宮には紆余曲折があったようですが、田口三区に「氏神」として相応しい神社が存在しなかったことに尽き

るであろう」と御堂山観音由来記には書かれています。田口の人々にとって氏神様といえは、長江神社であり、旧三区の津島神社の存在は、地域の人々にとって身近な氏神として信仰されていたようです。

最後になりましたが、聞き取り調査で協力していただいた皆様や、津島神社のあった場所を案内していただいた熊谷皓司さん、窪田新七さん、原田一雄さんに感謝申し上げます。

【参考文献】

設楽町誌「通史編・村落編・教育・文化編」、御堂山観音由来記

(文化財保護審議会委員

田邊 雅己)